中奥地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和8年7月28日（火）19:00～
開催場所	中奥コミュニティセンター
参加者	8名（市長、コミュニティ中奥、中奥和太鼓烈火、子育て世代、中奥里づくり協議会松明部会長、菜の花青年団役員）
選択トピック	若い世代が見つける「地元の魅力」と伸ばし方 1．若い世代の参加と組織運営 2．地域の魅力を活かしたまちづくりと子ども環境の充実



2. 主な議題と意見

（1）若い世代の参加と組織運営





①現状

- 中奥地区は白山市の中では比較的若い世代が多く、人口も増えつつある
- 菜の花青年団が 3 年前に設立され、現在、約 40 名が集まっており、子どもに思い出のある町、子どもが戻ってきたくなる町を念頭に活動している
- 夏祭りや社会体育大会などの行事には若い人たちが参加しているが、組織の運営（役員メンバー）は高齢の方が中心となっている
- 中奥夏祭りのメインイベント（大松明）では若い人がどんどん加わり、18 町内全部を回る活動が行われている

②課題

- 地域コミュニティ組織の役員構成が各種団体のトップなど高齢の方が中心になっており、若い世代の意見が聞きにくい状況にあり、固定メンバーになりつつある状況
- 壮年会に新規会員が増えておらず、むしろ減っている状況であり、かつての青年団から壮年会、親和会へと世代交代する仕組みが失われ世代間の継承が立ち行かなくなっている

③市の主な方向性・回答・対応

- 菜の花が青年団を発足し、子どもに思い出のある町を目指す取り組みは、若い世代が地域活動へ参加していく好事例である。若い世代には「地域を良くしたい」「できることがあれば協力したい」という思いを持つ方も少なくなく、地域コミュニティ組織がその橋渡し役となり、行事や活動を通じて郷土への愛着を育むことが期待される
- 菜の花の取り組みが地区全体に広がるための工夫を市も一緒に行い、他の地区へもこの事例を紹介し推奨していく

（2）地域の魅力を活かしたまちづくりと子ども環境の充実





①現状

- 子どもが太鼓や祭りに参加すると、兄弟も参加し、親も参加し、おじいちゃんおばあちゃんも見に来るという世代間の広がりが見られる
- 生涯学習講座（味噌作りと大根寿司）には、おばあちゃん世代から若い世代まで、幅広い年代が参加している
- 夏休みの宿題ウィークでは中奥コミュニティセンターに、毎日 60 人以上の子どもが勉強に来ていた
- 菜の花の産地として、地域のコーディネーターが東明小学校と連携。菜種の搾油実演や栽培法、松明づくり、盆踊りの指導などを授業や休み時間に行っている

②課題

- 子どもが気軽に出入りできる遊び場が不足しており、長期休暇時に、子どもが気軽に出入りできる遊び場が少ない。エアコンがついた安心できる集いの場が必要である
- お祭りなどの地域行事を通じた世代間交流をさらに充実させ、多くの人が参加しやすい環境づくりが必要であり、市内のお祭りを集めた「お祭りオールスター」が出来ると地域の交流も増えて、魅力ある白山市の発信にもつながる

③市の主な方向性・回答・対応

- 子どもの遊び場については、市長への提案はがきにもよく書かれており、市も課題は認識している
- 市内各所に児童センターを作っている。コミュニティセンターの一部を開放する取り組みが他地区でも進んでおり、市としてもサポートしていく
- お祭りは、子どもの参加など地域のコミュニティづくりの中で大きな役割を果たしている。「お祭りオールスター」という発想は良い提案である

---

3. まとめ

中奥地区は、比較的若い世代が多く、多様な団体が活動している地域であり、その中でも菜の花町内会の役員からの声かけで菜の花青年団が 3 年前に設立され、中奥夏祭りの大松明では若い人がどんどん加わり、子どもから高齢者まで世代間の活動の広がりが見られている活力ある地区です。

今回のミライ会議では、組織運営への若い世代の参加が不足しており、役員構成が高齢の方が中心になっていること、また長期休暇時に子どもが気軽に出入りできる遊び場が少ないことについて、具体的な話し合いを行いました。

市としましては、若い方が新しい取り組みにチャレンジし、いろいろな世代がいろいろなことを考え、取り組みをしながら、中奥地区で「本当に住んでよかった、住み続けたい」と言えるような地区に今後さらに進んでいくよう、市も伴走型で支援をしていくことを確認しました。


福浦 洋一
魚 直宏
市 長
シティプロモーション推進課長